

## 外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ

### 1. 現行学習指導要領の成果と課題

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力<sup>1</sup>は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 我が国では、外国語を日常的に使用する機会は限られているが、現在、学校で学ぶ児童生徒が卒業し活躍する社会や世界の舞台は、多文化・多言語の中で、国際的な協調と競争の環境の中にあることが予想される。そうした中で、国民一人一人が、様々な社会的・職業的な場面において、外国語を用いて互いの考えを伝え合い理解し合うことが一層重要になることが想定される。
- 現行学習指導要領は、発達段階に応じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。
- 一方で、各学校段階での指導改善による成果は認められるものの、児童生徒の学習意欲に関する課題があるとともに、小・中・高等学校の間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。
- また、中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> コミュニケーション能力については様々な考え方があるが、文部科学省の有識者会議の報告（コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」平成23年8月29日）においては「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義している。本ワーキンググループにおける議論においては、こうした定義も踏まえ、外国語教育における特質に配慮しながら、外国語によるコミュニケーション能力について、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語を通じて、身近な話題から社会や世界、他者との関わりの中で幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力として整理している。

<sup>2</sup> 平成27年度「英語教育改善のための英語力調査」において、中学校では、約8割の生徒は、与えられた質問について、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、意見、理由などの要素を関連づけながら考えを述べることに課題があると分かった。また、高等学校でも、試験官からの質問に対して生徒自身の経験や考えを述べる問題において、約半数に大きな課題があることが分かっている。

- 今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果とともに、これらの課題の改善を図る必要がある。

## 2. 育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

### (1) 教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 各教科等を学ぶ意義を明確化するためには、中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（平成27年8月）を踏まえ、それぞれの教科等において育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」）。以下、「三つの柱」という。）<sup>3</sup>を整理するとともに（資料1・2）、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」<sup>4</sup>をいかに実現するかという学習・指導改善の観点から、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を明らかにする必要がある。ここで言う「見方・考え方」とは、児童生徒が、各教科等の学習において、様々な知識や力を身に付けていく過程の中で、“どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか”という、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、思考の枠組みである。
- 外国語教育においては、特に、他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界との関わりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、多様な人との対話の中で、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うことで思考していくことが重要である。児童生徒は、このような学習過程を通じて、学ぶことの意味や自分の生活、人生や社会の在り方に主体的に結び付けたりする学びが実現さ

<sup>3</sup> 中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」においては、学校教育法第30条第2項が定める学校教育において重視すべき三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）を出発点としながら、学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力として、i）「何を知っているか、何ができるか（知識・技能）」ii）「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」iii）「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」の三つの柱で整理することが考えられ、各学校が編成する教育課程の中で、教育目標とともに、育成する資質・能力のより具体的な姿を明らかにしていくことが重要であると指摘されている。

<sup>4</sup> 「主体的・対話的で深い学び」については、「論点整理」を踏まえ、中央教育審議会の審議において、以下のように整理されている。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ・ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

れることによって、学校で学ぶ内容が、生きて働く知識や力として育まれることになる。こうした学びの過程が外国語教育の「主体的・対話的で深い学び」であり、その鍵となるものが、教科等の特質に応じた「見方・考え方」であると考えられる。こうした「見方・考え方」について、外国語教育においては、次のように整理を行う。

- 外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と整理する。
- 外国語教育では、このような「見方・考え方」を働かせながら、一連の学習過程を経て思考を深め、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」を成長させることが重要である。

## （２）小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理と教科等目標の在り方

- 本ワーキンググループにおいては、外国語教育について小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力を、前述（１）の三つの柱とともに、言語能力向上の観点から、外国語習得の特質を踏まえつつ、言語能力の向上に関する特別チームにおける議論を踏まえて整理する。特に、言語の果たす役割<sup>５</sup>として、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を外国語教育の資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、更に外国語教育の改善・充実を図る。
- 小・中・高等学校を通じて、外国語で他者とコミュニケーションを図る基盤を形成するため、外国語教育の目標においては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」のバランスの取れた育成を図りつつ、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることとする。あわせて、身近な話題から社会や世界、他者との関わりの中で幅広い話題までを取り上げ、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる外国語によるコミュニケーション能力を養うため、目標、指導内容、学習・指導方法、学習過程、学習評価等の在り方について一体的に検討する。
- 前述に示した「見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において育成を目指す資質・能力を育成するため（資料１）、次のように目標を設定することが適当であると考えられる（資料４）。

### （小学校中学年）

---

<sup>５</sup> 資料３「資質・能力を支える基盤としての言語能力向上の観点と外国語教育における改善・充実の方向性」を参照。「言語力育成方策について」（報告書案）（平成１９年８月：言語力育成協力者会議）において、言語の果たす役割として、①知的活動、②感性・情緒の基盤、③他者とのコミュニケーション（対話や議論）の基盤が報告されている。

- ◎ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、聞いたり話したりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の<sup>そじ</sup>素地となる資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。
- ① 外国語を用いた体験的な活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。
  - ② 外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
  - ③ 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(小学校高学年)

- ◎ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。
- ① 外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
  - ② 外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
  - ③ 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(中学校)

- ◎ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」による総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。
- ① 外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
  - ② 外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。

- ③ 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(高等学校)

- ◎ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」による総合的な言語活動を行うことを通して、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を、次のとおり育成することを目指す。
- ① 外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。
- ② 外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③ 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた指標形式の目標の設定)

- あわせて、前述1.のような課題を踏まえ、児童生徒の①各学校段階の学びを接続させること、②知識・技能(何を知っているか、何ができるか)を活用し、思考・判断・表現する力(知っていること、できることをどう使うか)、学びに向かう力・人間性等(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)を育成するため、「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、育成を目指す資質・能力とそれに基づく教育目標を明確化して改善・充実を図ることが重要である。
- 本ワーキンググループにおいて議論された資質・能力を明確にしつつ、次期学習指導要領においては、語彙・表現、文法等の個別の知識が、どれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能を実際のコミュニケーションにおいて活用し、主体的に運用する技能が習熟・熟達に向かったり、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識が獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。
- 外国語教育においては、それらの育成を目指す力について、前述のような課題を踏まえつつ、国際的な基準であるC E F R<sup>6</sup>などを参考に、次期学習指導要領において、

---

<sup>6</sup> C E F R (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会によって発表された。国により、C E F Rの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語

外国語学習の特質を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標を設定する。

- C E F Rにおいては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能ではなく、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり：interaction）」、「話すこと（発表：production）」、「書くこと」の5つの領域において、単に、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されている<sup>7</sup>。このことを踏まえ、これまで「4技能」と称されることが多かった、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」については、国の指標形式の目標において5つの領域として示すこととする。
- 国が定める指標形式の目標は、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」について、外国語教育の目標に沿って、高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で設定する。このため、「聞くこと」、「読むこと」「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の5つの領域ごとに小学校中学年段階から児童生徒の発達段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を設定するとともに、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動をより重視した目標とする（資料5）。
- また、育成を目指す資質・能力の三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」は、児童生徒が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーション能力を

---

能力に関する調査を実施するに当たって用いられたりするなどしている。C E F Rの精神としては、学習者、教授する者、評価者が共有することによって、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び、教え、評価できるよう」開発されたもの。「話すこと」のやりとり（interaction）は、少なくとも2人以上の個人が言葉のやりとりをする。その際、産出的活動と受容的活動が交互に行われ、口頭でのコミュニケーションの場合は同時に行われることもあり、対話者が同時に話し、聞くだけでなく、聞き手は話し手の話を先回りして予測し、その間に答えを準備しているものであるなど、やりとりは言語使用と言語学習の中でも大きな重要性が認められ、コミュニケーションにおける中枢的役割を果たしているとされている。

<sup>7</sup> ①C E F Rの文書において人間が言語を用いて行うタスク（人間の行為全般を C E F R ではタスクと言う。）は reception（受容）、interaction（やりとり）、production（産出）の3領域に分かれており、それらが総合的に「コミュニケーション活動（Communicative Activities）」と呼ばれている（C E F Rオリジナル文書 2.1.3）。②自己評価表（self-assessment grid）の形式で、Listening、Reading、Spoken interaction、Spoken production、Writing の5つのタスクは、コミュニケーション能力の社会言語的側面、語用論的側面を含んだ多面的なものであり、それらの複雑な横軸の側面についてはC E F Rオリジナル文書 Chapter 4及び5で解説されている。③5つのタスクは多層的な「領域」と考えられており、複雑な横軸の側面として具体的に C E F R の指標形式の目標で示されている内容は communicative competence（コミュニケーション能力）を示しており、それらは、linguistic competence（従来の語彙・文法などの知識と技能）、sociolinguistic competence（社会的文脈などを考慮してことばを使える力）、pragmatic competence（場面・状況・相手などを考慮してことばを使える力）と定義されている。④C E F R で目指している姿は「自律的社会的成員（autonomous social agent）」であり、自ら学習を管理できる「生きる力」を体現する社会的成員としての個人であり、この点からも学習指導要領の目標とC E F Rは非常に近い目標が掲げられていると考えられている。

身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識・技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現する力を繰り返すことで児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上していくため、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」は不可分に結び付いている。児童生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることが大切である。

- 各学校においては、国が学習指導要領に定める外国語の指標形式の目標を踏まえ、学校ごとに具体的な学習到達目標を設定する。その際、個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、「知識・技能」を目的に応じた実際のコミュニケーションにおいて活用し、外国語で情報や自分の考えなどを表現し伝え合うことで、外国語教育の資質・能力の育成が図られるよう、学習内容等を設定することが求められる。
- これらに基づき、例えば、外国語を通して「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という観点から、卒業後、どのような職業等に就くとしても生かすことができるような資質・能力を、児童生徒が将来の進路や職業などと結び付けて「主体的に学習に取り組む態度」等を含めて育まれるようにする必要がある。あわせて、学習・指導方法、評価方法の改善・充実を一体的に図っていく必要がある。これらを踏まえ、外国語教育において育成を目指す資質・能力を育成する学びの過程の改善・充実を図ることとする。
- これまで求められる生徒の英語力として、国の第2期教育振興基本計画(平成25年度～29年度)に掲げられている学習指導要領に基づき達成される英語力の成果指標を基に、中学校卒業段階で国際的な基準であるCEFRのA1レベル程度以上、高等学校卒業段階でCEFR A2～B1レベル程度以上を達成した中高生の割合を50%とすること<sup>8</sup>の実現に向けた取組を推進してきた。第2期教育振興基本計画の期末において、これまでの取組を評価した上で、今後は、現在審議されている第3期教育振興基本計画(平成30年度～34年度)において、次期学習指導要領に沿った目標を設定し、更なる改善・充実を図る必要がある。
- このため、都道府県等においては、生徒及び教員の英語力などの目標設定・管理の下で、英語教育の確実な改善につなげるために策定する「英語教育改善プラン」を着実に進め、課題に対応した研修等を計画的に実施する必要がある。

---

<sup>8</sup> 国の第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)においては、成果指標として、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。また、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(平成26年9月)においては、これまで設定されている英語力の目標から、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT 60点前後以上等(CEFRのB1～B2レベル程度)を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要であると指摘されている。さらに、27年度の国の行政事業レビューでは、第2期教育振興基本計画期末時のレビューを経た上で、将来的な目標設定を行うことを提示している。

- 高等学校卒業段階で求められるレベルは、高校生の多様化を踏まえ、「外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる力」（必履修科目でC E F RのA 2レベル、選択科目でC E F RのB 1レベル相当を想定）を育成するための科目の見直しを検討する（資料6）。
- アジアの教科書を比較した研究<sup>9</sup>によると、外国語の学習指導要領においては指導する語彙の数しか定めておらず、日本の中学校第3学年の教科書では語彙の分量を増やすことに主眼が置かれ、実際のコミュニケーションに必要な語彙が少ない一方、かなり難易度の高い単語が出てきている状況も見られる。このため、指導する語彙については、実際のコミュニケーションにおいて活用される語彙を繰り返し使うよう、国が示す指標形式の目標との関係において教科書で用いられる語彙の質的改善を行う必要がある
- 指導する語彙数については、これまでの実績や諸外国における外国語教育の状況などを参考に、実際のコミュニケーションにおいて必要な語彙を中心に、小学校で600～700語程度、中学校で1,600～1,800語程度、高等学校で1,800～2,500語程度（高等学校で必履修科目及び選択科目を全て履修した場合、小・中・高等学校を通じて4,000～5,000語程度）を指導することとして整理した<sup>10</sup>（資料6）。

### （3）資質・能力を育成する学びの過程の考え方

- 外国語教育では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」をバランスよく指導することによって外国語による総合的なコミュニケーション能力を養うことが目標の中核を成している。言語は通常、人との関わりの中で用いられるため、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながらコミュニケーションを図ることが求められる。例えば、聞き手の理解の状況を確認しながら話しているか、相手の発話に反応しながら聞き続けようとする態度を示しているか、などといった相手への配慮が求められることになる。
- 外国語教育においては、このようなコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や考えなどを、外国語で聞いたり読んだりして的確に理解したり、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合う力を育成するため、三つの柱に沿った資質・能力を踏まえた一連の学習過程の改善・充実を図る必要がある。

<sup>9</sup> 投野委員の研究より、「韓国、台湾、中国の教科書と日本の中学第3学年の教科書について、2000年に代表的なものを比較したところ、日本は異語数、総語数、テキストの分量が少なかった。学習指導要領の改訂を踏まえ、中学校の教科書を調査したところ、以前とは異なり韓国、台湾のものとはほぼ同等のレベルまで分量が増え、語彙は1000語から（中学3年の規定は1,200語）平均2,000語と分量も多くなっている。ただし、選定されている語彙には統一感がなく、出現すべきA1レベル1000語のうち、7種の教科書で共通する単語は343語しかない。語彙の統制は余りできておらず、かなり難易度の高い単語が中学校で出現している。」との指摘がなされた。

<sup>10</sup> 現行の学習指導要領では、指導語数を増加〔中学校は900語程度から1,200語程度、高等学校は1,300語程度から1,800語程度（「コミュニケーション英語Ⅲ」までを履修した場合）〕させた。



- このような学習過程では、児童生徒が、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うという過程を経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、「思考力・判断力・表現力等」を高めていくことが大切になる。これらのことを踏まえた上で、外国語教育におけるアクティブ・ラーニングの視点に立った学びを推進する学習過程へ改善する必要がある。
- 以上を踏まえ、本ワーキンググループでは、小・中・高等学校で一貫した目標（指標形式の目標を含む）の下で、発達段階に応じた学習過程とのイメージについて整理した（資料7）。
- このような発達段階に応じた学習過程を経ることによる思考力や判断力の高まり、外国語による表現力の向上、自律的・主体的に学習する態度の育成などを通じ、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝え合う外国語によるコミュニケーション能力を育成することが重要である。
- 外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るためには、こうした学習活動を繰り返し行うことが重要である。なお、これらの学習過程は、必ずしも一方向の流れではなく、指導のねらいに応じて、戻ったり繰り返したりする場合があること、単元全体を通して「身に付けさせたい力」を育成するのであって、一単位時間の中で育成を目指す資質・能力の全てを扱う学習内容を実施する必要はなく、その一部のみを取り扱う場合があること、単元によってそれぞれの学習活動に軽重を付けて扱うものであることなどに留意する必要がある。

#### （４）「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

- 現行の学習指導要領においては、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」、「技能」、「思考・判断・表現」の観点について、各教科等の特質に応じた観点（「外国語」については「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」）を示し、評価規準の設定や評価の方法等の工夫改善例が示されている<sup>11</sup>。

<sup>11</sup> 小学校の外国語活動の学習評価については、「①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語への慣れ親しみ、③言語や文化に関する気付き」の3つの評価の観点例を示し、設置者がこれを参考に学習指導要領の目標に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行う。中・高等学校の外国語科では、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化についての知識・理解の4観点から評価を行う。そのうち、②③については、技能のみではなく、「思考力・判断力・表現力等」が含まれる。国立教育政策研究所がまとめた「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」においては、学習指導要領の内容の言語活動における「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」をまとまりとして、それぞれの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例を挙げている。

- 「論点整理」において示された「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点について、教科を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、外国語教育における観点別評価の観点についても、資質・能力の三つの柱を踏まえ、外国語教育の目標と一体的に検討する必要がある。本ワーキンググループにおいては、これまでの取組も踏まえつつ、「論点整理」に沿って、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について整理した（資料8）。
- 「知識・技能」については、語彙・表現や文法などの知識の習得に主眼を置くのではなく、それらを活用して実際のコミュニケーションを図ることができるような知識として習得されるとともに、自律的・主体的に活用できる技能を外国語の習熟・熟達に向かうものとして評価することについて留意する。
- 「思考力・判断力・表現力等」については、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解したり、外国語を話したり書いたりして適切に表現したりするとともに、情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーションができているかどうか留意して評価する。
- また、「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることとしている。
- 現行の観点別学習状況の評価における「関心・意欲・態度」の観点は、それが他の観点から独立してあるものではなく、「他の観点到に係る資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素でもある」とされ、対象となる学習の単元における四つの観点は、単元における学習と一体的に評価が行われる必要があるものとされている。
- このことを踏まえ、例えば、その単元において最も重視して評価を行う事項について、「主体的に学習に取り組む態度」以外の2つの観点、「知識・技能」（「外国語を用いて○○することができる」）又は「思考力・判断力・表現力等」（「外国語を用いて○○している」等）の観点から評価を行う事項を、「主体的に学習に取り組む態度」（「外国語を用いて○○しようとしている」）の事項としても捉え、その単元、または複数の単元において「知識・技能」又は「思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」の両面から評価を行うこととする。このような方法によって、児童生徒がコミュニケーションへの関心を持ち、自ら課題に取り組んで表現しようとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価することが重要である。
- 各学校で設定した目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、「外国語を用いて何ができるようになるか」という観点から単元全体を見通した上で、授業の中で育成を目指す技能やその活用方法について重点化して指導し、単元目標と年間の到達目標とが有機的につながるよう、単元・年間を通して「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」について、全ての観点から総合的に評価することが重要である。

その際、前述2.（3）の資質・能力を育成する学びの過程を通じて、筆記テストのみならず、面接、エッセー、スピーチ等のパフォーマンス評価、活動の観察等の多

様な評価方法から、その場面における児童生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択して評価することが重要である（資料9）。

### 3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

#### （1）小学校の外国語教育における改善・充実

- 小学校段階においては、高学年の「外国語活動」の充実により、児童の高い学習意欲、中学生の変容などの成果が認められる一方で、①音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない、②国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある、③高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり体系的な学習が求められることなどが課題として指摘されている。
- これらの成果と課題を踏まえて、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」及び「書くこと」を加えた、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的・系統的に扱う教科学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応した教科化に向けて、新たに①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき、③語順の違いなど文構造への気づきなど、言語能力向上の観点から、実際のコミュニケーションの場を通じて、言葉の仕組みの理解などを促す指導を行うために必要な時間数を確保することが必要である<sup>12</sup>。
- 小学校高学年においては、
  - ・教科としての外国語教育のうち基礎的なものとして、中学年から高学年及び高学年から中学校へ学びの連続性を持たせながら、これまでの体験的な「聞くこと」「話すこと」を扱う言語活動に加え、「読むこと」「書くこと」を扱う言語活動を通じて、より系統性を持たせた指導（教科型）を行う。その際、外国語の基本的な表現に関わって「聞くこと」や「話すこと」などの外国語によるコミュニケーション能力の基礎を養う体系的な指導を行う教科として位置付ける。
  - ・教科として位置付ける際、単に中学校で学ぶ内容を小学校高学年に前倒しするのではなく、身近なことに関する基本的な表現による「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の豊かな言語活動を行うため、発達段階に応じて「読むこと」及び「書くこと」に慣れ親しみ、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする態度の育成を含めた初歩的な運用能力を養うことが考えられる。

<sup>12</sup> 英語教育の改善・充実については、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」においても、文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」（26年9月26日）においてまとめられた提言を踏まえつつ検討することとされている。提言においては、「小中高等学校を通じた英語教育強化事業」等の先行した取組の検証を踏まえた外国語教育の課題や方向性について詳細がまとめられている。

例) 馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、一日の生活などについて、友達に質問したり、質問に答えたりすることができる。

- あわせて、小学校で学んだ語彙・表現などは中学校において、小学校とは異なる場面で使ったり別の意味で活用したりするなど、言語活動において繰り返し活用し定着を図る。さらに、中学校で学習した語彙・表現・文法事項等は高等学校においても意味のある文脈の中で外国語によるコミュニケーションを通して繰り返し触れることが重要である。その際、ICT等を活用した効果的な言語活動を行うよう工夫が求められるとともに、児童生徒が自らの学習活動を振り返って次につながる主体的な学びができるようにすることが必要である。
- このような方向性を目指し、小学校高学年において「聞くこと」「話すこと」の活動に加え、「読むこと」「書くこと」を含めた言語活動を展開し定着を図り、教科として系統的な指導を行うためには、年間70単位時間程度の時数が必要である<sup>13</sup>。また、中学年における外国語活動については、従来の外国語活動と同様に年間35単位時間程度の時数が必要である。(資料10)

## (2) 短時間学習等の活用など、弾力的な授業時間の設定や時間割編成に関する考え方

- これまでの成果・課題を踏まえつつ、教育課程全体の枠組みの状況<sup>14</sup>を考慮すると、小学校高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、ICT等も活用しながら10～15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う短時間学習(帯学習、短時間モジュール学習。以下「短時間学習」という。)<sup>15</sup>を含めた弾力的な授業時間の設定や時間割編成とそのために必要な「カリキュラム・マネジメント」を、教育課程全体を見通しながら実現していくことが求められる。
- 弾力的な授業時間の設定や時間割編成に関する研究開発学校等の先行的な取組状況や「教育課程の編成・実施状況調査」の結果及び、これまでの成果・課題等を踏まえ、今後、外国語の特質を踏まえた指導内容のまとめりや教育効果を高める観点から、短

<sup>13</sup> 中央教育審議会 教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年8月)においては、「さらに、仮に105時間(週3コマ程度)実施することについては、指導体制などの条件整備や小学生の生活への負担等を考えると、教育課程の特例としてではなく全国一律に実施することは極めて困難。また、現段階で教科ごとの指導の専門性が中学校以降ほど確立されていない小学校段階でこれを強いることは、英語嫌いを生み出すことにつながりかねない。今後、児童への指導に当たっては、教科化に対応できる指導力を備えるとともに、児童理解、学級経営を基盤とした授業の実施等に対応できる指導者が求められる。」との指摘がなされた。

<sup>14</sup> 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(平成20年1月中央教育審議会)6(1)小・中学校の教育課程の枠組みにおいては、「学習指導要領上の標準授業時数を増加する場合、週28コマが限度と考えられる」と指摘された。

<sup>15</sup> 小学校学習指導要領においては、短時間学習を含む単位時間の設定の工夫について、総則の解説に記載されている。なお、中学校学習指導要領においては、総則本文に「10分間程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教員がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業時数に含めることができる」との規定がある。

時間学習を行う場合には、その目標を明確にし、学習指導要領が定める標準授業時数内で、その時間を年間授業時数に含め、まとまりのある授業時間との関連性を確保した上で実施することが必要である。

- 前述の調査結果や小学校での取組の現状を踏まえると、短時間学習については、授業時数内外で様々な教科も含めた取組が行われており、全ての小学校において、外国語に特化した短時間学習を一律に行うこととするのは困難な状況にある。このため、年間70単位時間における一定の短時間学習の在り方を横並びで求めるのではなく、ある場合には45分授業を60分授業の扱いにして、その中の15分を短時間学習として位置付けることや、また別の場合には外国語の短時間学習を2週間に3回程度実施すること、さらに、別の場合には、夏季、冬季の長期休業期間において言語活動を行うことなど、地域や学校間の差に配慮しつつ、地域や各学校の実情に応じて幅のある弾力的な授業時間の設定や時間割編成をすることが必要であると考えられる。
- 中学年においては、年間35単位時間、週あたり1コマ相当の外国語活動を、短時間学習で実施することは困難であり、小学校の教育課程全体を見通した「カリキュラム・マネジメント」が必要である。あわせて、教員一人一人がカリキュラム・マネジメントの視点を持って、子供たちに必要な資質・能力を育成する必要がある。
- カリキュラム・マネジメントを通じた弾力的な時間割の編成については、外国語教育や特定の学年にとどまらず、全ての教科等や学年全体を見通す視点が必要となることから、効果的な創意工夫の在り方について、国や教育委員会と小学校、関係団体が連携して調査研究を行い、その成果を普及させていくことが求められる。
- 以上を踏まえた検討とともに、担当する教員が、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任を持って行う体制が必要であるといった観点から、教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備が不可欠である。

### (3) 中学校の外国語教育における改善・充実

- 中学校では、小学校の「外国語活動」で学んだ内容が十分に生かされていないことや、言語活動が十分ではないという指摘を踏まえ、義務教育の修了段階として、小学校での学びとの連続性を図りつつ、身近な事柄についてコミュニケーションを図ることができるようにする。あわせて、高等学校における言語活動の高度化に対応するための基礎を培う観点から、発達段階に応じて、身近な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりする力を養うことが必要である。

その際、例えば、カリキュラム・マネジメントの観点からも、学校生活、地域行事、生徒の体験、他教科等での学習内容等と関連付けて、互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う対話的な言語活動を中心とする授業を行うことを重視する。また、授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、高等学校と同様、中学校においても授業を英語で行うことを基本とする<sup>16</sup>。

---

<sup>16</sup> 「授業は英語で行うことを基本とする」こととは、教員が授業を英語で行うとともに、生徒も授業の中でできるだけ多くの英語を使用することにより、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすること

- 特に、前回改訂において大幅な時数増を行った中学校における指導を最大限に活用する観点からも、小学校段階で「聞くこと」「話すこと」に加えて「読むこと」「書くこと」を通して学んだ語彙・表現、文字の認識や語順の違いなどへの気付きを生かして、中学校の言語活動において繰り返し活用することによって着実な定着まで高めることが重要である。

また、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させるなど指導の改善を図る。

- 中学校については、教育委員会や学校における外国語教育に関する取組<sup>17</sup>も含め地域によって差があること、小・中学校の学びが接続されていない事例があること、生徒の学習意欲に課題があることなどが明らかになっている<sup>18</sup>。このような調査結果等に基づき、地域において小・中学校の学習到達目標を共有し、児童生徒の学びの接続や指導改善などの取組を進めるとともに、教育委員会、各学校における課題を把握・分析し、授業改善や環境整備に役立てることが期待される。

あわせて、新たに「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」の力を測定する全国学力・学習状況調査の実施<sup>19</sup>により、生徒のつまずきや指導上の課題を明確にして指導改善につなげるPDCAサイクルを確立することが重要である。

- 小学校で学んだ語彙や表現などについて、中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である。

#### (4) 高等学校における科目構成の見直し

- 高等学校の外国語教育においては、一部改善が見られるものの、依然として「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」全てに課題がある。特に、「話すこと」及び「書くこと」における発信力について課題が大きい。あわせて、中学校からの学びを高等学校に円滑につなげるとともに、高校生の多様化に対応した改善・充実の方向性に沿って見直しを行う必要がある。

---

である。これは、生徒が、授業の中で英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実するとともに、生徒が英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図ることを目的としている。英語に関する各科目の「特質」は、言語に関する技能そのものの習得を目的としていることである。しかし、このような技能の習得のために必要となる、英語を使用する機会は、我が国の生徒の日常生活において非常に限られている。これらのことを踏まえれば、英語に関する各科目の授業においては、訳読や和文英訳、文法指導が中心とならないよう留意し、生徒が英語に触れるとともに、英語でコミュニケーションを行う機会を充実することが必要である（出典：高等学校学習指導要領解説外国語編）。

<sup>17</sup> 文部科学省「英語教育実施状況調査」において学習到達目標の設定状況等を公表している。

<sup>18</sup> 文部科学省「平成25年度 学力・学習状況調査」、「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査」において、小学校入学前から義務教育段階において英語学習を開始した時期を学校外も含めて調査している。

<sup>19</sup> 「全国的な学力調査に関する専門家会議」において、「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ」がまとめられている。

- このため、本ワーキンググループにおいては、外国語教育における資質・能力の整理を踏まえ、次のような改善の方向性に沿って科目構成にすることとしている。

(高等学校における改善・充実の方向性)

- 高等学校卒業段階で求められる「外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる力」(必履修科目でC E F RのA 2相当、選択科目で同B 1相当を想定)を育成するため、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的に扱う科目として「英語コミュニケーション(仮称)」を設定する。
- 中学校で学んだことを実際のコミュニケーションにおいて運用する力を十分に身に付けていないといった課題のある生徒も含めた高校生の多様性を踏まえ、外国語で授業を行うことを基本とすることが可能な科目を見直す必要がある。このため、必履修科目(特に学習の初期段階)において、中学校の学び直しの要素を入れることとする。
- 中・高等学校について、活動を通して言語材料を使うという観点からどのような教科書が望ましいかということ念頭に置きつつ、指標形式の目標設定やその達成のために行う言語活動などの整理が必要である。例えば、外国語科の授業において言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領に沿って設定された指標形式の目標を実現するためにいかに言語活動を改善・充実していくかといった視点が必要である。このため、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の総合型の科目(必履修科目を含む)に加え、発信能力の育成を更に強化するための科目として「論理・表現(仮称)」(「発表、討論・議論、交渉」などにおいて、聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする統合型の言語活動が中心)を設定する。あわせて、留学や進学などの目的に応じて高い英語力を目指す高校生もいるといった多様性を踏まえ、専門教科の科目構成を見直すとともに、学校設定科目などでも対応できるようにする。
- また、高等学校においては、生徒や学校の多様なニーズを踏まえ、スーパーグローバルハイスクール等の成果を参考にしつつ、グローバルな視点で他教科等での学習内容等と関連付けて、外国語を用いて課題解決を図る力などを育成するための言語活動の改善・充実を図る必要がある。
- 中学校で学習した語彙・表現・文法事項等は高等学校の学習において、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫し、外国語の運用能力を高めることが必要である。

(高等学校「外国語」の科目等の見直し)

- 本ワーキンググループにおいては、外国語教育における資質・能力の整理及び上述の課題を踏まえ、次のような科目構成にすることが適当であるとした(資料11)。
- 現行学習指導要領の「コミュニケーション英語」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等の課題を踏まえた科目見直しの方向性として、次期学習指導要領における「英語コミュニケーション」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)については、以下のとおりとする。
  - ① 中学校との接続が不十分であるため、中・高等学校の学びの接続を改善する観点から、現行の「コミュニケーション英語基礎」の要素を必履修科目である「英

語コミュニケーションⅠ」(仮称)に組み込んで、中学校における学びの確実な定着を図るための内容を含めた見直しを検討する。

- ② 現行の教科書において、言語活動の割合が低く、文法や語彙の習得にとどまっている等の課題を踏まえ、例えば、目標と言語活動との関係を明確に提示するとともに、英語を「聞くこと」や「読むこと」によって英文から様々な情報や英語表現を取り込み、それらを活用して課題解決のために英語を用いた言語活動を行うという流れで学習するものとする。
- ③ 生徒が興味関心を持てるような、日常的な話題から時事問題・社会問題にいたるまで幅広い話題を扱うものとする。
- 「英語表現」Ⅰ・Ⅱの課題を踏まえた科目見直しの方向性として、現行の教科書の多くが文法シラバス中心で、科目の趣旨を生かし切れていないことを踏まえ、「論理・表現」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(仮称)においては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を活用しつつ、「話すこと」及び「書くこと」を中心として、幅広い話題について発表(スピーチやプレゼンテーション等)、討論・議論(ディベートやディスカッション等)、交渉などの言語活動を行うことができる内容へ見直すこととする。
- 専門教科「英語」の各科目については、より高度で専門的な科目構成・内容等を設定することについて検討する。

#### (5) 英語以外の外国語教育の改善・充実

- グローバル化が進展する中、日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは、言語やその背景にある文化の多様性を維持・促進し、他の国・地域や文化の尊重につながるため、英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にすることが必要である。
- また、次期学習指導要領に向けて、英語以外の外国語教育における指標形式の目標設定を踏まえたカリキュラム研究、研修、教材開発などの取組への支援が必要である。

#### (6) 国語教育と外国語教育の効果的な連携の意義

- 言語能力の向上の観点からは、国語教育と外国語教育をそれぞれ改善・充実しつつ、相互の連携を図ることで、国語で学んだことが外国語の表現活動に生かされたり、国語と外国語の特徴や違いに気付き、国語を学ぶことに対する関心が高まったりするなど、子供の学習に相乗的な効果が見られるとの例<sup>20</sup>が報告されているところである。
- このような取組を踏まえ、言語能力の向上につながる効果的な連携につなげるためには、国語科と外国語科の指導内容について、そのつながりが可視化される

---

<sup>20</sup> 英語教育強化地域拠点事業の中では、①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、③語順の違いなど文構造への気付きなどを促す取組が行われているところである。また、教育課程特例校における実践についても報告されている。



ことが必要である。外国語習得の特質を踏まえつつ「言語能力の向上に関する特別チーム」において整理された内容を踏まえ、各学校において、言語能力の向上に向けた「カリキュラム・マネジメント」が実施されやすくなるよう、例えば、言葉の働きと仕組みの理解や言語活動を通じて育成される資質・能力といった観点から、指導の順序性や、言語活動で扱う内容や方法などの具体的な連携の在り方についてわかりやすく整理していくことが求められる。

#### (7) 資質・能力の整理と学びの過程の考え方を踏まえた教育内容の示し方の改善

- 外国語教育については、前述2.(3)の三つの資質・能力を育成する学びの過程の考え方を踏まえ教育内容の示し方を改善する必要がある。
- 「外国語の見方・考え方」を育成する観点から、三つの資質・能力の育成を踏まえた小・中・高等学校を通じた教科目標、指標形式の目標、内容等を体系的に整理するとともに、子供たちを社会に送り出すまでに外国語教育においてどのような力を身に付けさせるのかという出口を明確にした上で、小・中・高等学校の外国語教育における内容の系統性を検討することが求められる。
- それらについて、次期学習指導要領においては、前述2.(3)のような一連の学習過程を経ることが効果的であることを明確にするという観点から、構造を整理し改善を図ることが重要である(資料12)。

#### (8) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

- グローバル化が進展する国際社会を主体的に生きるための資質・能力の観点から、スーパーグローバルハイスクール等の先進的な取組における成果を生かしつつ、外国語を通じて、世界の言語、生活・文化の多様性や、地球規模の諸課題、持続可能な社会の構築、情報化などにおける課題を把握し、その解決に向けて情報を選択、整理し、自分の考えを形成・表現する力を育成することが重要である。あわせて、児童生徒が外国語を通じて社会や世界に関わろうとする態度を育成するためには、グローバルな視点からテーマを幅広く取り上げ、それらに対する児童生徒の関心を高めるとともに、キャリア教育の視点からも教育内容を改善・充実する。

---

## 4. 学習・指導の改善充実や教材の充実

---

### (1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

#### ① 特別支援教育の充実

- 現行学習指導要領では、総則において、「個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」(小学校学習指導要領の例。中学校、高等学校も同様。)と記載されている。このことを踏まえ、外国語教育においても指導の場面における適切な配慮が一層充実されるよう工夫を講じる必要がある。

- 外国語教育において、児童生徒の資質・能力の育成を目指し、目標を達成するため、具体的な学習の場面で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」を示していくことが適当である。また、これらの対応に必要な教員研修・養成における改善・充実が図られる必要がある。

(小学校外国語活動の例)

- 音声を聴き取ることが難しい児童の場合、外国語と日本語の音声（音韻）やリズムの違いに気付くことができるよう、外国語の音声を文字で書いてみせる、リズムやイントネーションを記号や色線で示す、教員等が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表すなどの配慮をする。また、授業の流れが分かるように、授業の活動の流れを黒板に記載しておくなどの配慮が必要である<sup>21</sup>。

(小学校外国語科の例)

- ・ 1単語当たりの文字数が多い、長い文など複雑な文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい児童の場合、外国語の文字を提示する際は、字体をそろえる、線上に文字を書く、語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼るなど、児童が見やすい位置や順序など、表記の仕方や貼り方に配慮することが考えられる。

(中・高等学校における外国語科の例)

- ・ 英語の単語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、それが要因で、英語に苦手意識をもつ生徒も少なくない。そのような場合、文字情報と音声情報を一体化して指導し、当該単語を繰り返し見たり発音したりする機会を十分に確保するなどの配慮が必要である。
- ・ 授業の流れや活動の変化に対応することが難しい場合、教科・科目などの枠を超え、板書の仕方に規則性をもたせる、授業の流れに統一感をもたせる、ワークシートなどを活用して生徒がノートに書く情報を最小限にとどめたりするなどの配慮をすることが考えられる。
- ・ 他者とコミュニケーションを行うこと自体に課題がある生徒については、ペア・ワークやグループ・ワークなどを行う場合、個々の生徒の特性に応じた配慮が必要である。

## ② 個に応じた学習の充実

- 各種調査において、児童生徒の学習意欲に課題があることや、学校や英会話教室などで外国語を学び始めた時期が、小学校入学前から中学入学前の段階において相当のばらつきがあり、児童の学力差や、学級間、学校間の差が見られるとの指摘もある。これらのことから、各学校の学習到達目標は全ての児童生徒に求められる外国語能力を達成するものとして設定し、地域や児童生徒の実態を踏まえて活用することが重要である。

---

<sup>21</sup> 中央教育審議会「論点整理」において、音声については、音声から文字への学習に円滑に接続されていないなどの課題に対応するため、音韻の意識等を踏まえた指導を始め、イントネーションやリズムなど、英語に特徴的にみられる音への気付きを促す指導が重要であると指摘されている。

- 習熟に時間を要する児童生徒については、目標に到達しつつある過程を教員が適切に評価することによって、児童生徒の更なる学習を支援して学習意欲を維持したり、目標を超えた伸長が見られる児童生徒はその先を見通し、学習意欲が維持したりできるような個に応じた学習を行う必要がある。
- また、中・高等学校においては、卒業時の学習到達目標を設定するに当たって、入学前の小学校や中学校での学習状況を把握し、各学校や生徒の状況を踏まえて活用することなどの工夫が求められる。
- また、英語教員及び外国語指導助手(A L T)等の外部専門人材の配置や、地域における指導体制について、地域間、学校間における差があるため、次期学習指導要領に向けた必要な支援体制として、地域の外国語教育を推進する指導者の確保、教育委員会と学校間の連携による効果的な養成・研修の実施、外部専門人材の活用など、地域における戦略的な指導体制強化のための条件整備が必要である。

## (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。
- 外国語教育においては、質の高い学びに向けて、外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを子供自身が認識できるような学習活動を設けることが大切である。その際、子供自身が、自分の思考の過程をたどり、それを話したり書いたりすることによって表現し、自分の学びを自覚することが重要である。
- 外国語教育において、「主体的・対話的で深い学び」が実現できているか、前述2.(3)の資質・能力を育成する学びの過程の質的改善の不断の見直しを図ることが重要であり、以下、それぞれの学びの過程について整理した。
  - i) 「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、外国語を通してどのように社会・世界と関わり、生涯にわたって学んだことをどのように生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、情報や考えなどを発信したり、評価したりするために、自らの学習活動を振り返って次の学習につなげることが重要である。このため、外国語教育においては、この学びの実現に向けて、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。
  - ii) 「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重し、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、次期学習指導要領においては、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成するという観点を、資質・能力全体を貫く軸として重視する。その上で、創造的思考とそれを支える論理的思考、感性・

情緒を育成する観点から求められる資質・能力が明確になるよう整理することを通じて、外国語教育の改善・充実を図る。

例えば、各学校段階で育成を目指す「思考力・判断力・表現力等」については、①小学校は、身近で簡単な話題について友人に質問したり質問に答えたりする力、②中学校では、互いの考えや気持ちなどを理解し、根拠を持って外国語で伝え合う力、③高等学校では、幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする力であることをより明確にする。

また、対話的な学びの実現に向けて、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

iii) 「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」について実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。各学校段階における言語活動を設定するに当たり、アクティブ・ラーニングの視点から、後述のような点に留意して学びを改善し、子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定する。

- ・ 小学校では、その目標を達成するために、身近で簡単なことについて聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力が求められる。そのためには、児童が興味関心のある題材について聞いたり話したりする必然性のある活動の設定が重要である。児童同士、または児童と指導者との豊富なやりとりを通して、どのようにしたら自分の思いが相手に伝わるか、相手の思いが理解できるか、思考を働かせることで伝え合う力を高めることにつながる。また、新しい情報を得たり、心が動いたりすることで、言葉の有用性や、言葉でやりとりをすることの大切さを体験的に理解することにつながる。
- ・ 中学校では、具体的で身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができる能力の育成が求められる。そのためには、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う対話的な言語活動を重視し、単に自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に伝えたり、出来事や体験したことなどについて書いたりするだけでなく、聞いたり読んだりしたことを基に問答したり意見を述べ合ったりすることや、感想、賛否やその理由を書いたりすることなど、複数の力を統合した言語活動を豊富に経験することが重要になる。
- ・ 高等学校では、日常的な話題や社会問題など幅広い話題について、外国語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする力の育成が重要になる。そのためには、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用して話したり書いたりする統合型のスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどに主体的・協働的に取り組むことが大切である。これらの活動では中学校

と同様、例えば、当該の話題に関する資料を十分に読み込み、自分の考えと理由を伝え合い、それを基にして情報や考えなどを整理して書くというように、複数の力を統合させて行うことになる。

- また、「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習・指導の改善充実のために、ICTやデジタル教材などを、身に付けるべき能力や児童生徒の現状（能力・適正や興味関心など）に応じて効果的に活用し、児童生徒の興味関心を高め、指導の効率化及び言語活動の充実を図る。

例えば、デジタル教材や電子黒板等を活用して、児童生徒にネイティブ・スピーカーの発音に触れさせ外国語と日本語の音声の違いに気付かせたり、インターネット等を用いてグループで情報収集、調査、発表、討論等をしたり、テレビ会議システムを活用して、外国の姉妹校との交流を通じて外国語で情報を伝え合う活動などが考えられる。（資料13）

### （3）教材の在り方

- 外国語教育については、資質・能力の育成に向けた教育内容の改善充実のためには、教材の在り方を見直すことが必要である。特に、音声や映像を活用した効果的な教材開発と、それらを活用して外国語によるコミュニケーション能力を効果的・効率的に育成する指導力が必要である。
- 小学校においては、先進的な取組も含めたこれまでの外国語活動の成果・課題を踏まえた取組を行うことが重要である。小学校における外国語教育の目標を実現するためには、主たる教材である中学年向けの外国語活動の教材や、高学年向けの教科書についても重要な要素の一つである。
- 次期学習指導要領の趣旨を踏まえた中学年向けの外国語活動の教材や高学年向けの教科書を作成する際に参考となるよう、28年度中に26・27年度に開発した小学校中学年・高学年向けの補助教材の検証を行い、その検証結果を生かして、中学年での外国語活動の導入や高学年での教科化に対応した教材を29年度にかけて開発<sup>22</sup>し、30年度には先行実施を行う小学校で活用できるよう作成・配布する必要がある。
- その際、高学年向けの教材について、一定の効果的な短時間学習<sup>23</sup>等の活用など柔軟なカリキュラム設定を行うことが可能となる教材を作成するとともに、活用しやすいICT教材の開発が求められる。
- 中・高等学校においては、教科書等の教材の課題として、生徒が興味関心を持てる内容が不十分であるとともに、その構成上、結果的に文法事項の習熟を図る活動に分量の多くがとられているため、題材や言語材料を活用しながら、説明・発表・討論等を通じて「思考力・判断力・表現力等」を育成するような言語活動の展開が十分には意識されていないと思われるものが見受けられる。例えば、高等学校の「英語表現」

<sup>22</sup> 平成28年6月、文部科学省に「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」を設置し、検討を行っている。

<sup>23</sup> これまでの成果等を踏まえた単元構成などを生かすと、年間標準時間70単位時間について、短時間学習とまとまりのある言語活動のバランスを図りつつ、両者の関連付けを行うことが必要であるとの指摘があった。

I・IIでは、生徒が実際のコミュニケーションの場面において考えながら話し合ったり書いたりするなどの授業展開ができるような構成となるよう改善が期待されるものも見られる。

- このため、生徒が発信したいと思える題材を扱うなどの工夫が必要であるとともに、中・高等学校において、どのような力を身に付けるべきであるかということを念頭に置きつつ、学習指導要領における指標形式の目標設定などの整理を行う必要がある。その際、例えば、言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領に沿った言語活動が中心となるよう改善・充実をする視点が必要である。
- また、次期学習指導要領の趣旨を実現する観点から、外国語教育の指導を行う際には、多様な教材を活用していくことが期待される。
- 特に高等学校については、科目の見直しに対応した言語活動を通じて資質・能力を育成する授業となるよう、教材の改善・充実を図ることが求められる。
- あわせて、教材を効果的に活用するためには、教員の指導力の向上が不可欠である。そのため、授業の展開を明確にイメージできるような映像等を用いた指導事例や研修教材・研修マニュアル等を作成し、普及を図る必要がある。
- 外国語教育においては、デジタル教材の活用等によって児童生徒の興味関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」につながるような学習活動に応じた多様な教材が必要となるため、ICTの活用を推進するためのハードウェアの充実を促進する。

## 5. 必要な条件整備等について

- 外国語教育に関する教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備、小学校の中・高学年それぞれの課題に応じた指導体制の整備が不可欠である。
- 小学校においては、中学年の外国語活動導入、及び高学年の教科化に対応するとともに、「カリキュラム・マネジメント」の中で、外国語教育や特定の学年にとどまらず、全ての教科等と学年全体を見通し、弾力的な授業時間の設定や時間割の編成を行う視点が必要になる。これを支援するため、効果的な教材開発及び指導者の研修・養成が課題となる。

(地域・学校における指導体制)

- 小学校においては、校長の方針や各教員の意識によって取組に差があることが指摘されている。各学校においては、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体の取組方針を明確にした上で、全教員の共通理解を図りながら、中核教員を中心とした校内の外国語教育に係る指導体制の強化に取り組むことが重要である。また、指導体制の強化においては、①効果的な教材開発とともに、②児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力を総合的に育成することができる指導者の確保を含めた充実が必要である。
- 地方自治体においては、各学校における外国語教育充実のため、学校や地域全体で取り組む必要がある。例えば、市町村単位で、地域の指導的立場にある教員が複数の小・中学校を担当し、英語教育担当指導主事や外部専門家等とチームを組んで

指導に当たるなど、地域の実情に応じた柔軟かつ効果的な指導を行う体制づくりが不可欠である。また、優れた指導力を有する教員を、地域の研修講師や助言者として小・中学校の接続を前提とした専科指導等が可能となる「英語教育推進リーダー」として養成することなどが考えられる。

- このような体制の中で、小・中・高等学校の一貫した外国語教育や、小学校における外国語教育の専門性の向上等を推進することが期待される。具体的には、地域において、外国語教育のPDCAサイクル<sup>24</sup>を通じて、「英語教育推進リーダー」や英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高等学校が連携した研修や、教育委員会と大学・外部専門機関との連携による研修などを実施するとともに、各学校を訪問し、指導計画の作成や指標形式での学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。
- また、そのような体制を確保しながら、採用・養成・研修を通じた専門性の向上を図っていくことが重要であり、小学校における外国語の教科化への対応や中・高等学校における「話すこと」や「書くこと」の指導力の向上を図るため、大学、教育委員会等が参画して養成・研修に必要な小・中・高等学校におけるコア・カリキュラム開発<sup>25</sup>を行い、課程認定の際の審査や各大学による教職課程の改善・充実の取組に活用できるようにする。また、小学校中学年の外国語活動導入と高学年の外国語の教科化に向け、音声学を含む英語学など専門性を高める教科に関する科目とともに、英語等についての教職に関する科目を教職課程に位置付けることについて、指導する人材の確保などを含め、各大学の教職課程において実施の確実性を含めた検討を進めることが必要である。
- 小学校については、高学年の教科化に向けて現職教員が外国語の指導に関する専門性を高めることができるよう、小中の学びの円滑な接続を図るために必要な内容を加えた認定講習等の開設支援などを行う。あわせて、各教育委員会等においては、専科指導を担う、専門性の高い教員を確保する体制を構築することが期待される。このため、国においては、専門性の高い教員の養成・研修や、外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築する。

(外部専門人材の確保)

- 児童生徒が生きた外国語に触れる機会を一層充実するため、当該言語を母語とする外国人やこれに準ずる者の教員や外国語指導助手等としての受入れを一層推進し、単独授業を含む教育活動全般に登用していくことも必要である。各都道府県教育委員会においては、文部科学省が示した指針<sup>26</sup>を参考として適切に基準を定め、各学校が特別免許状制度を活用した効果的な外国語教育を行えるよう、外国人を含む外国語の能

<sup>24</sup> 平成28年度より、都道府県ごとに「英語教育改善プラン」の策定・公表を行い、目標設定・管理の下、必要な研修等を実施し、PDCAサイクルの構築を推進している。

<sup>25</sup> 平成27年度「英語教員の英語力・指導力に関する調査研究事業」において、養成の「コア・カリキュラム」、研修の「モデル・プログラム」の試案を作成。平成28年度は、同事業において試案の検証・実証と、それを踏まえた「コア・カリキュラム」「モデル・プログラム」の完成を目指している。

<sup>26</sup> 平成26年6月19日「特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針」の策定について（文科省通知）

力・指導力の高い外部専門人材を活用することが期待される。あわせて、外国語が堪能な地域人材や外国語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる。その際、自治体においては、必要な外部専門人材の確保が困難な学校もあることに配慮した適切な配置等を行うことが必要である。

（高大接続改革における外国語教育）

- 高大接続改革の観点から、大学入学者選抜は、外国語教育に大きな影響を与えるものである。中・高等学校の次期学習指導要領の趣旨に沿った外国語教育が実現されるためにも、高大接続システム改革会議での検討を踏まえ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を評価していく必要がある。



## 外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ 資料

- 資料 1 : 学習指導要領改訂の方向性**
- 資料 2 : 外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理**  
(参考) 資質・能力を育成する学びの過程の要素イメージ  
(参考) 「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例
- 資料 3 : 資質・能力を支える基盤としての言語能力向上の観点と外国語教育における改善・充実の方向性 (たたき台)**
- 資料 4 : 外国語活動・外国語科における教育のイメージ**
- 資料 5 : 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標 (イメージ) たたき台**
- 資料 6 : 小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について**
- 資料 7 : 外国語教育における「見方・考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成 (イメージ)**
- 資料 8 : 外国語教育における観点別評価 ・たたき台 (イメージ)**
- 資料 9 : 外国語教育における目標、学びの過程、評価の構造 (イメージ)**  
(参考) 小・中・高等学校における外国語の学習指導案 (イメージ)
- 資料 10 : 次期学習指導要領の3～6年生の年間指導計画イメージ たたき台**
- 資料 11 : 高等学校における英語科目の改訂の方向性として考えられる構成**
- 資料 12 : 外国語教育の目標と学習過程の全体像イメージ**
- 資料 13 : 外国語教育におけるICTの活用について (たたき台)**

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む  
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

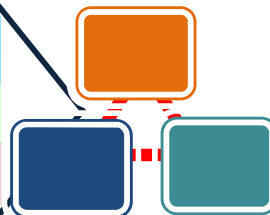
**学習内容の削減は行わない※**

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 思考力・判断力・表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 学びに向かう力・人間性等                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○外国語の特徴やきまりに関する理解<br/>・音声、語彙・表現、文法の知識</p> <p>○言語の働き、役割に関する理解<br/>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを円滑にする<br/>(繰り返す、言い換える 等)</li> <li>・気持ちを伝える<br/>(感謝する、謝る 等)</li> <li>・情報を伝える<br/>(説明する、理由を述べる 等)</li> <li>・考えや意図を伝える<br/>(賛成・反対する、主張する 等)</li> <li>・相手の行動を促す<br/>(依頼する、許可する 等)</li> </ul> <p>※各言語活動に応じた言語の働き</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能</p> <p>など</p> | <p>◆外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力</p> <p>◆考えの形成、整理</p> <p>○目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力</p> <p>○知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力</p> <p>○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力</p> <p>など</p> | <p>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</p> <p>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度</p> <p>○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度</p> <p>など</p> |

# 外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理

|              | 知識・技能                                                                                                                                                                               | 思考力・判断力・表現力等                                                                                                                                                            | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                         |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語活動<br>小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語への慣れ親しみ</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること<br/>外国語を聞いたり、話したりすること</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや、文化の違いに気付く</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度<br/>など</li> </ul> |
| 外国語<br>小学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の仕組みへの気付き<br/>(音、単語、語順など)</li> <li>○聞くことに関する知識・技能<br/>話すことに関する知識・技能<br/>外国語を読んだり、書いたりすること</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度<br/>など</li> </ul>          |
| 外国語<br>中学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識</li> <li>○言語の働きや役割などの理解</li> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能<br/>など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力</li> <li>○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度<br/>など</li> </ul>                                             |

# 外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理

|             | 知識・技能                                                                                                                                                                          | 思考力・判断力・表現力等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語<br>高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識</li> <li>○言語の働きや役割などの理解</li> <li>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的な話題から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</li> <li>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的な話題から時事問題・社会問題まで幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</li> <li>○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</li> <li>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度など</li> </ul> |



(参考) 資質・能力を育成する  
学びの過程の要素イメージ

他者への働きかけ、他者との協働  
外部との相互作用

目的に応じた  
コミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

目的に応じた  
発信までの方向性の決定・言  
語活動等の見通し

目的達成のための言語活動  
(統合型)

言語・内容の両  
面におけるまと  
めと振り返り

次のコミュニケー  
ションにおける  
目的の設定・  
活動へ

※必ずしも一方通行の流れではない

聞くこと

読むこと

話すこと

書くこと

語彙・表現・文法等

統合した活動

プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例

思考

意見や考えの形成

判断

表現

目的の  
理解

目的に応じ  
た情報の抽  
出

関連する  
知識や情  
報の検索

課題について得  
られた知識や情  
報を整理・統合

知識や情報を活用  
して自分の意見や  
考えを形成・整理

意見や考え  
の吟味と再  
構築

多様な見方や  
考え方に基  
づいた次の思考  
プロセスへ

目的の明確化  
と必要な情報  
の把握

目的達成に  
必要な情報の  
選択

様々な見方や考え  
方の共通点・相違点等  
の評価・選択・決定

自分の考えや主張を適切な語彙・表現・  
文法を用いて効果的に伝えることの  
意思決定

情報間の  
関係性を構成

目的に関する  
論点・解決策  
の整理

流暢さと正確さ  
のバランス

インタラク  
ションによる  
表現

目的に応じて  
伝え合うことを通じた  
表現の深化・多様化

「聞くこと」及び「読むこと」を活用した「話すこと」及び「書くこと」による  
言語活動（図表等による表現も含む）

統合型の活動を通じて英語による思考力・判断力・表現力等を育成

※「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のうち、二つ以上を効果的に組み合わせて統合的に活用（例）（聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握し、自分の意見や考えなどとの共通点や相違点などを示しながら論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力、与えられた話題について、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力、相手からの問いかけに応じて自身の経験や考えを適切に述べる力） など

## (参考)「英語」において特に重視すべき思考力・判断力・表現力等の例

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」についてバランス良く総合的に育成するとともに、複数の領域を統合的に活用し、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じたコミュニケーションのプロセスを通じて適切に伝えたりする思考力、判断力、表現力等。

### (例)

#### ＜「聞くこと」の領域＞

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、スピーチ、プレゼンテーション、講義などを聞き、複数の情報を整理するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

#### ＜「読むこと」の領域＞

- まとまりのある英文、比較的長い対話文、英語で書かれた図表などを読み、複数の情報を整理・統合するなど思考・判断して、必要な情報を得たり概要や要点を把握したりする力。

#### ＜「話すこと」の領域＞

- （発表）多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて話して説明するとともに、自分の意見や考えなどをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に話して伝える力。
- （やり取り）身近な話題や知識のある話題について、情報や意見について交換するとともに、自分の意見や考えをまとめ、適切な語彙・表現・文法を用いて伝え合う力。

#### ＜「書くこと」の領域＞

- 多様な考え方ができる話題や時事問題・社会問題などについて、自分の意見や考えなどをまとめ、論点や根拠を明確にしながら、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に書いて伝える力。

#### ＜統合型の領域＞（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のうち二つ以上を統合的に活用）

- 聞いたり読んだりして得た情報（英文や図表など）について、その概要や要点を的確に把握するとともに、自分の意見や考えなどの共通点や相違点などを示しながら、論理的・批判的に話したり書いたりして表現する力。

## 言語力の育成方策について（報告書案）（平成19年8月16日言語力育成協力者会議配付資料）

### （1）言語の果たす役割

①知的活動（特に思考や論理）の基盤、②感性・情緒の基盤、③他者とのコミュニケーション（対話や議論）の基盤

### （2）指導の充実

◆言語力の育成については、国語科を中核としつつ、すべての教科等での言語の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成するための道筋を明確にしていくことが必要。

#### ①知的活動に関すること

- ・事実を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える技能を伸ばすこと
- ・自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばすこと
- ・考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばすこと

#### ②感性・情緒等に関すること

- ・感性や情緒は、他者との人間関係の中で育まれていくものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かなものに高めていくものであること

#### ③他者とのコミュニケーションに関すること

- ・個々人が他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど、お互いの考えを深めていくことが人々の共同生活を豊かなものにすること

◆発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用と探究などについて認識や実践ができる水準が変化。それに応じて、指導内容や言語活動の特色付けをしていく必要がある。

### 次期学習指導要領において外国語教育を通じて求められる資質・能力の改善（イメージ）

学習指導要領において、③言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、上記①、②の観点からも求められる資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、外国語教育を改善・充実

- …身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力（小学校外国語活動）
- …聞くこと、読むこと、話すこと、書くことのうち、特に聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力（小学校外国語科）
- …日常的・社会的で具体的な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換したりするなどして伝え合うことができる力（中学校）
- …情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力（高等学校）
- …聞き手・話し手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度（小学校外国語活動）
- …相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度（小学校外国語科）
- …聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度（中学校）
- …聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度（高等学校）

思考力  
判断力  
表現力  
等

学びに  
向かう  
力・人間  
性等



## 【高等学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。
  - ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
  - ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
    - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【中学校】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
  - ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。
  - ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
    - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【小学校高学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
  - ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
  - ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
    - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

## 【小学校中学年】

- ◎外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、聞いたり話したりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を次のとおり育成を目指す。
- ①外国語を用いた体験的な活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。
  - ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
  - ③外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
    - 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

# 「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）たたき台

資料 5

| 校種                                                                                   | CEFR<br>レベル | 聞くこと                                                                                                                                                                                                                                                                              | 読むこと                                                                                                                                                                                                                                                  | 話すこと<br>(やり取り)                                                                                                                                                                                                         | 話すこと<br>(発表)                                                                                                                                                                                                                                                                            | 書くこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>↑</div> <div>高等学校</div> <div>↑</div> <div>中学校</div> <div>↑</div> <div>小学校</div> | B2          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。</li> <li>○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。</li> <li>○幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。</li> <li>○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。</li> <li>○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。</li> <li>○Eメール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。</li> </ul> |
|                                                                                      | B1          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。</li> <li>○比較的ゆっくりはっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> <li>○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。</li> <li>○知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の経験や身近な事柄について、複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</li> <li>○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。</li> </ul>                                                               |
|                                                                                      | A2          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。</li> <li>○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</li> <li>○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。</li> <li>○身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。</li> </ul>                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が必要とする事柄について、短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。</li> <li>○身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができるようにする。</li> <li>○聞いたり読んだりした内容について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。</li> </ul>                                                                                       |
|                                                                                      | A1          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。</li> <li>○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。</li> <li>○身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれるなど)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。</li> <li>○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。</li> </ul>                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分に関するごく限られた情報を、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> <li>○ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
|                                                                                      | (Pre-A1)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。</li> <li>○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</li> <li>○ゆっくりはっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。</li> </ul>                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。</li> <li>○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。</li> </ul>                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。</li> <li>○相手のサポート(ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれるなど)があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。</li> <li>○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を持ってアルファベットの大文字と小文字を活字体で書くことができるようにする。</li> <li>○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                          |

複数の力を統合的に扱う言語活動を通して求められる英語力を身に付ける



| 聞くこと                            |                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                 |                                                                                                                                                                             | A1                                                                                                                                                                            | A2                                                                                                                                                                         | B1                                                                                                                                                                                                                                       | B2                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (参考)<br>CEFR 自己評価表              |                                                                                                                                                                             | はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。                                                                                                                | (ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。<br>短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。                                                                 | 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。<br>話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。                                                                                                    | 長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。<br>たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。<br>標準語の映画なら、大多数は理解できる。                                                                                                                                                                |
| 想定される<br>学校種・教科、科目等             | 小学校中学年・外国語活動<br>＋<br>小学校高学年・外国語                                                                                                                                             | 小学校高学年・外国語<br>＋<br>中学校・外国語                                                                                                                                                    | 中学校・外国語<br>＋<br>高等学校・外国語、必修修科目                                                                                                                                             | 高等学校・外国語、選択科目                                                                                                                                                                                                                            | (高等学校・外国語、選択科目<br>＋<br>専門教科、英語 等)                                                                                                                                                                                                                                                |
| 国の指標形式の<br>主な目標                 | <div>□アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。</div> <div>□挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</div> <div>□ゆっくりははっきりと、繰り返し話されれば、自分に関することや身近で具体的な事物を表わすごく簡単な語句や文を聞き取ることができるようにする。</div> | <div>□挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。</div> <div>□日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。</div> <div>□ゆっくりははっきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。</div> | <div>□短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</div> <div>□身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</div> <div>□ゆっくりははっきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。</div> | <div>□身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。</div> <div>□比較的ゆっくりははっきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。</div> <div>□比較的ゆっくりははっきりと話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。</div>                  | <div>□母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</div> <div>□身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。</div> <div>□自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。</div> <div>□ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。</div>                                 |
| 授業における主な<br>言語活動<br>(言語の使用場面の例) | ○アルファベットの発音の識別<br>○挨拶や短いごく簡単な指示の理解と反応<br>○自分に関することや身近で具体的な事物を表すごく簡単な語句や文の聞き取り など                                                                                            | ○挨拶や簡単な指示の理解と反応<br>○日常生活における基本的な情報の理解<br>○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明における必要な情報の聞き取り など                                                                                            | ○個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージの理解と反応<br>○簡単なアナウンスからの情報取得<br>○身の回りの事柄に関する平易で短い会話や説明の概要・要点理解 など                                                                                       | ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話の概要・要点理解<br>○時事問題や社会問題に関する短い平易な説明からの情報取得<br>○馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組の要点理解                                                                                                                                      | ○多様な話題の長い会話の概要・要点理解<br>○複雑な議論における話の展開や論点の理解<br>○時事問題や社会問題に関する説明の概要・要点理解<br>○ある程度知識のある話題のラジオ番組やテレビ番組の概要・要点理解 など                                                                                                                                                                   |
|                                 | ・アルファベットの発音を聞いて、文字と結び付ける。<br>・挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて、それらに応じる。<br>・身近な人物、身の回りの事物などに関するごく簡単な英語を聞いて、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける。                                                           | ・挨拶や簡単な指示を聞いて、適切に応じる。<br>・日付、曜日、時刻、単位を表す表現など、日常生活において必要となる基本的な情報を聞いて理解する。<br>・友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る。                     | ・友人からの招待など、個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージを聞いて、適切に応答する。<br>・店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスを聞いて、必要な情報を得る。<br>・友人や家族、学校生活など、身の回りの事柄に関する平易で短い会話や説明を聞いて、概要や要点を理解する。                             | ・身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を整理して比較する。<br>・時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、必要な情報を得るとともに、得た情報を当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディバート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。<br>・馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、必要な情報を書いてまとめるとともに、それを他者に口頭で伝える。 | ・多様な話題の長い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発話の要点を理解する。<br>・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解するとともに、各話者の主要な論点を整理して比較する。<br>・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、概要や要点を理解するとともに、得た情報を当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディバート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。<br>・ある程度知識のある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、得た情報を書いてまとめるとともに、それを他者に口頭で伝える。 |
| 言語の働きの例                         | 各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 言語活動の例<br>(共通話題：<br>フェアトレード)    | 国名と食品名を表す単語を聞いて、それらを表すイラストと結び付けるとともに、国名とその国で生産量が多いと思われる食品名とを結び付ける。                                                                                                          | イラストや写真を参考にしながら、お茶、コーヒー、綿などの農産品の主な生産国と生産者の収入に関する説明を聞いて、得た情報を表にまとめる。                                                                                                           | サッカーボールの生産事情（生産国や生産者など）に関する説明を聞いて、その歴史や問題点を整理するとともに、日常生活においてフェアトレードが必要な他の製品に関する説明を聞いたり読んだりしてさらに情報を得る。                                                                      | 日本におけるフェアトレード市場の歴史、現状、課題に関する説明を聞いて、必要な情報を得るとともに、それに基づいて、日本におけるフェアトレード市場拡大のためにどのような方策が有効であるかについて意見を出し合う。                                                                                                                                  | 自国のフェアトレード市場について話している会話を聞いて、各話者の国に関する情報を整理するとともに、国民一人当たりの認証製品購入額が高い国々の状況に関する説明を読んだ上で、日本においてフェアトレード市場を拡大するための方策についてプレゼンテーションを行う。                                                                                                                                                  |

| 読むこと                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (参考)<br>CEFR 自己評価表              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A1                                                                                                                                                                                                                                                    | A2                                                                                                                                                                                                                      | B1                                                                                                                                                                                                                                                                                | B2                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。                                                                                                                                                                                                           | ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。<br>簡単に短い個人的な手紙は理解できる。                                                                                                                      | 非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。<br>起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。                                                                                                                                                                                                       | 筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。<br>現代文学の散文は読める。                                                                                                                                                                                                               |
| 想定される<br>学校種・教科、科目等             | 小学校中学年・外国語活動<br>＋<br>小学校高学年・外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | (小学校高学年・外国語)<br>＋<br>中学校・外国語                                                                                                                                                                                                                          | 中学校・外国語<br>＋<br>高等学校・外国語、必修修科目                                                                                                                                                                                          | 高等学校・外国語、選択科目                                                                                                                                                                                                                                                                     | (高等学校・外国語、選択科目<br>＋<br>専門教科、英語 等)                                                                                                                                                                                                                               |
| 国の指標形式の<br>主な目標                 | <input type="checkbox"/> ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <input type="checkbox"/> 日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。<br><input type="checkbox"/> 平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 | <input type="checkbox"/> 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。<br><input type="checkbox"/> 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 | <input type="checkbox"/> 関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。                                             |
| 授業における主な<br>言語活動<br>(言語の使用場面の例) | <input type="radio"/> アルファベットの文字の識別（大文字・小文字を含む）と発音<br><input type="radio"/> ごく身近で具体的な事物を表す単語の意味の理解 など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <input type="radio"/> 簡単な語句や単純な文の理解<br><input type="radio"/> 平易でごく短い物語（視覚情報付）のあらすじ理解<br><input type="radio"/> 平易でごく短い説明（視覚情報付）のスキミング など                                                                                                               | <input type="radio"/> 平易で短いテキストのスキニング<br><input type="radio"/> 平易で短い物語のあらすじ理解<br><input type="radio"/> 平易で短い説明のスキミング など                                                                                                 | <input type="radio"/> 短い説明のスキニング<br><input type="radio"/> 短い物語のあらすじ理解<br><input type="radio"/> 時事問題や社会問題に関する平易な説明などのスキニングやスキミング など                                                                                                                                                | <input type="radio"/> 幅広い話題を扱った英文のスキニングやスキミング<br><input type="radio"/> 現代小説や随筆の概要理解<br><input type="radio"/> 時事問題や社会問題に関する説明などのスキニングやスキミング、詳細理解 など                                                                                                              |
|                                 | ・アルファベットの文字を見て、それが何かを識別する（大文字・小文字の識別を含む）。<br>・アルファベットの文字を見て、適切に発音する。<br>・音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表す単語を見て、その意味を推測する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ・日常生活に関連した身近な掲示、カタログ、パンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る。<br>・平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、おおよそのあらすじを理解する。<br>・友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしながら、概要を理解する。                                                                 | ・平易な表現が用いられている広告、パンフレット、予定表などから、自分が必要とする情報を得る。<br>・平易な英語で書かれた短い物語を読んで、おおよそのあらすじを理解する。<br>・友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解する。<br>・読んで得た情報やそれに関する意見を伝え合う。                                                | ・比較的短い記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を得る。<br>・短い物語を読んで、あらすじを理解して、それを口頭で他者に伝える。<br>・時事問題や社会問題について情報を得るために効果的な資料を自分で探し、それを読んで概要を理解する。<br>・資料などを読んで得た情報や英語表現を、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。                                                                 | ・幅広い話題を扱った記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を得る。<br>・比較的簡単な現代小説や随筆を読んで、概要を理解するとともに、あらすじや感想を簡単に書いてまとめる。<br>・時事問題や社会問題について幅広く情報を得るために効果的な資料を自分で探し、必要となる情報の取得、概要理解、詳細理解など、目的に応じた読み方をする。<br>・資料などを読んで得た情報や英語表現を、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、エッセーライティングなどにおいて活用する。 |
| 言語の働きの例                         | <div> <div> &lt;コミュニケーションを円滑にする&gt;<br/> &lt;気持ちを伝える&gt;<br/> &lt;情報を伝える&gt;<br/> &lt;考えや意図を伝える&gt;<br/> &lt;相手の行動を促す&gt; </div> <div> ・相づちを打つ<br/> ・褒める<br/> ・説明する<br/> ・申し出る<br/> ・依頼する </div> <div> ・聞き直す<br/> ・謝る<br/> ・報告する<br/> ・賛成する<br/> ・誘う </div> <div> ・繰り返す<br/> ・感謝する<br/> ・描写する<br/> ・反対する<br/> ・許可する </div> <div> ・言い換える<br/> ・望む<br/> ・理由を述べる<br/> ・主張する<br/> ・助言する </div> <div> ・話題を発展させる<br/> ・驚く<br/> ・要約する<br/> ・推論する<br/> ・命令する </div> <div> ・話題を変える など </div> </div> 各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択 |                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 言語活動の例<br>(共通話題：<br>ユニバーサルデザイン) | 公共交通手段や公共施設に関する単語を見て、単語とそれが表すイラストや写真とを結び付ける。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 日本のユニバーサルデザインの具体例を紹介した説明を読んで、イラストや写真を参考にしながら概要を理解する。                                                                                                                                                                                                  | 海外のユニバーサルデザインの具体例を複数紹介した説明をグループで分担して読んで、自分が読んだ内容を他者に伝えるときともに、日本に取り入れた方がよいと思われるものについて、その理由などを含めて簡単な意見交換をする。                                                                                                              | 国内外のユニバーサルデザインが生かされた多様な事例について各自で資料を探して読んで、どのような人たちのために、どのような配慮がなされているのかについて整理をした上で互いに情報を伝え合うとともに、今後どのようなユニバーサルデザインが必要となるのかについて意見を出し合う。                                                                                                                                            | 国内外のユニバーサルデザインが生かされた多様な事例について各自で資料を探して読んで、そこから得た情報や英語表現を活用して、今後どのようなユニバーサルデザインが必要となるのかについて、その理由なども含めて具体的なアイデアをまとめ、個人又はグループでプレゼンテーションを行う。                                                                                                                        |
| 言語活動における<br>他教科との連携（例）          | [題材] 小学校「社会」「生活」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | [題材] 小学校「社会」「生活」<br>中学校「社会」                                                                                                                                                                                                                           | [題材] 中学校「社会」<br>高等学校「公民」<br>[活動（意見交換）] 中学校「国語」<br>高等学校「国語」                                                                                                                                                              | [題材] 高等学校「公民」<br>[情報収集] 高等学校「情報」<br>[活動（意見交換）] 高等学校「国語」                                                                                                                                                                                                                           | [題材] 高等学校「公民」<br>[情報収集] 高等学校「情報」<br>[活動（プレゼンテーション）] 高等学校「国語」                                                                                                                                                                                                    |



「話すこと（やりとり）」

| 話すこと（やりとり）                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| （参考）<br>CEFR 自己評価表              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | A1                                                                                                                                                                                                              | A2                                                                                                                                                                                                                       | B1                                                                                                                                                                                                                            | B2                                                                                                                                                                                                              |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 相手がゆっくり話し、繰り返ししたり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。<br>直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。                                                                                      | 単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。<br>通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。                                                                                                                       | 当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいいていの状況に対処することができる。<br>例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。                                                                                                               | 流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。<br>身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。                                                                                                                                     |
| 想定される<br>学校種・教科（科目）等            | 小学校中学年・外国語活動<br>＋<br>小学校高学年・外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 小学校高学年・外国語<br>＋<br>中学校・外国語                                                                                                                                                                                      | 中学校・外国語<br>＋<br>高等学校・外国語（必修修科目）                                                                                                                                                                                          | 高等学校・外国語（選択科目）                                                                                                                                                                                                                | 高等学校・外国語（選択科目）<br>＋<br>専門教科英語 等                                                                                                                                                                                 |
| 国の指標形式の<br>主な目標                 | <input type="checkbox"/> 挨拶やごく短い簡単な指示に応答することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、自分に関することについてごく簡単な質問に答えることができるようにする。                                                                                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 相手の発話を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 相手のサポート（ゆっくり話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など）があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやりとりをすることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 公共の場所（店、駅など）において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。                                                            |
| 授業における主な<br>言語活動<br>（言語の使用場面の例） | ○挨拶<br>○ごく簡単な質疑応答 など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ○簡単な表現を用いた質疑応答<br>○簡単な情報交換 など                                                                                                                                                                                   | ○簡単な英語を用いた短い会話<br>○簡単な意見交換 など                                                                                                                                                                                            | ○簡単な英語を用いたディベート<br>○簡単な英語を用いたディスカッション など                                                                                                                                                                                      | ○幅広い表現を用いたディベート<br>○幅広い表現を用いたディスカッション など                                                                                                                                                                        |
|                                 | ・初対面の人や知り合いと簡単な挨拶を交わす。<br>・ごく短い簡単な指示に応じる。<br>・自分に関するごく簡単な質問に答えたり、相手についてごく簡単な質問をしたりする。                                                                                                                                                                                                                                                                   | ・ごく身近な話題について、簡単な質問をしたり簡単な質問に答えたりする。<br>・ごく身近な話題について、自分の思いや自分が知っていることなどを伝え合う。                                                                                                                                    | ・身近な話題について、ある程度準備をした上で、短い会話をする。<br>・身近な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、ある程度準備をした上で、得た情報や自分の考えや気持ちなどを伝え合う。                                                                                                                        | ・身近な話題の会話において、準備をしないで自分の考えや気持ちなどを表現する。<br>・身近な暮らしにかかわる多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。<br>・身近な話題や知識のある時事問題や社会問題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や自分の意見などを述べ合うとともに、相手の発話について質問したり意見を述べたりする。                             | ・幅広い話題の会話や議論において、適切に発言の機会を獲得して情報や自分の意見などを表現する。<br>・幅広い話題の会話や議論において、人の発言を誘ったり、相手や自分の理解を確認したり、話を展開・発展させたりする。<br>・時事問題や社会問題など幅広い話題の議論において、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現するとともに、互いの発言を検討し、課題の解決に向けて考えを生かし合う。 |
| 言語の働きの例                         | <div>〈コミュニケーションを円滑にする〉 ・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す ・言い換える ・話題を発展させる ・話題を変える など</div> <div>〈気持ちを伝える〉 ・褒める ・謝る ・感謝する ・望む ・驚く ・心配する など</div> <div>〈情報を伝える〉 ・説明する ・報告する ・描写する ・理由を述べる ・要約する ・訂正する など</div> <div>〈考えや意図を伝える〉 ・申し出る ・賛成する ・反対する ・主張する ・推論する ・仮定する など</div> <div>〈相手の行動を促す〉 ・依頼する ・誘う ・許可する ・助言する ・命令する ・注意を引く など</div> <div>各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択</div> |                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                 |
| 言語活動の例<br>（共通話題：食）              | 食べ物の好き嫌いについて、尋ねたり答えたりする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 食べ物の好き嫌いについて、理由なども含めて互いに質疑応答する。また、相手から得た情報を他者に伝える。                                                                                                                                                              | 健康な食生活を送るために大切だと思うことや食の安全に関して留意していることについて、ある程度の準備をした上で簡単な意見交換をする。                                                                                                                                                        | 遺伝子組換え食品に関する議論を賛成・反対の立場に分けて整理し、得た情報を交換するとともに、遺伝子組換え食品の是非についてディベートを行う。                                                                                                                                                         | 遺伝子組換え食品に関する幅広い議論をリサーチ・整理し、それに基づいて、今後の市場における遺伝子組換え食品の在り方についてディスカッションを行う。                                                                                                                                        |

「話すこと（発表）」

| 話すこと（発表）                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| （参考）<br>CEFR 自己評価表              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | A1                                                                                                                                                                                                                | A2                                                                                                                                                                                                        | B1                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | B2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。                                                                                                                                                                       | 家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。                                                                                                                                                               | 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。<br>物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。                                                                                                                                                                                         | 自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。<br>時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。                                                                                                                                                                                                                        |
| 想定される<br>学校種・教科（科目）等            | 小学校中学年・外国語活動<br>＋<br>小学校高学年・外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 小学校高学年・外国語<br>＋<br>中学校・外国語                                                                                                                                                                                        | 中学校・外国語<br>＋<br>高等学校・外国語（必修教科目）                                                                                                                                                                           | 高等学校・外国語（選択科目）                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 高等学校・外国語（選択科目）<br>＋<br>専門教科英語 等                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 国の指標形式の<br>主な目標                 | <input type="checkbox"/> 定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。                                                                                                                                                                                                                                 | <input type="checkbox"/> 簡単な語句や文を用いて、自分について話すことができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて短く話すことができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料の概要や要点を説明することができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 知識のある時事問題や社会問題について、内容を具体的に説明するとともに、自分の意見を加えて話すことができるようにする。 | <input type="checkbox"/> 幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。<br><input type="checkbox"/> 幅広い分野のテーマについて、明瞭かつ詳細な説明をすることができる。<br><input type="checkbox"/> 多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする<br><input type="checkbox"/> 聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。 |
| 授業における主な<br>言語活動<br>（言語の使用場面の例） | ○簡単な挨拶<br>○簡単な語句や文を用いた自分に関する情報 など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ○簡単な語句や文を用いた自己紹介<br>○日常生活における基本的な情報<br>○ごく身近な事柄についての短い簡単なスピーチ など                                                                                                                                                  | ○身近な事柄についての説明（即興、準備あり）<br>○身近な話題に関する短いスピーチ など                                                                                                                                                             | ○身近な事柄についての説明やスピーチ（即興、準備あり）<br>○記事、資料などの概要・要点説明<br>○時事問題や社会問題に関するプレゼンテーション など                                                                                                                                                                                                                             | ○幅広い話題についての説明やスピーチ（即興、準備あり）<br>○時事問題や社会問題に関するプレゼンテーション<br>○話す速度や使用する表現の調整 など                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                 | ・初対面の人や知り合いに簡単な挨拶をする。<br>・自分の名前、年齢、好き・嫌い、興味のあることなどを、簡単な語句や文を用いて話す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ・簡単な語句や文を用いて、自分の趣味や特技などを含めた自己紹介をする。<br>・時刻、日時、場所など、日常生活における基本的な情報を伝える。<br>・ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちを含めて短い簡単なスピーチをする。                                                                                          | ・自分に関することや身の回りのことについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明する。<br>・自分や友人、学校生活などの身近な事柄や出来事に関する情報を伝える。<br>・身近な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、自分の意見・主張やその理由を含めて短いスピーチをする。                                                                | ・自分、友人、学校生活、地域社会などの身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明する。<br>・身近な話題や関心のある事柄について、関連情報や具体例などを加えながら、まとまりのあるスピーチをする。<br>・関心のある分野のテーマに関する記事やレポート、資料などを読んで、伝えるべき事項を整理した上で、概要や要点を発表する。<br>・時事問題や社会問題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、自分の意見・主張やその理由を論理的に伝えるプレゼンテーションをする。                                                                 | ・幅広い話題について、即興で、概要を説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりする。<br>・幅広い分野のテーマについて、関連情報や具体例などを加えながら、明瞭かつ詳細なスピーチをする。<br>・多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、聞いたり読んだりしたことに基づいて情報を整理し、様々な見方の長所・短所を示しながら自分の意見・主張やその理由を論理的に伝えるプレゼンテーションをする。<br>・聴衆の反応や理解度を確認しながら話し、必要に応じて、話す速度や使用する表現などを変える。                                                             |
| 言語の働きの例                         | 〈コミュニケーションを円滑にする〉<br>〈気持ちを伝える〉<br>〈情報を伝える〉<br>〈考えや意図を伝える〉<br>〈相手の行動を促す〉<br>・相づちを打つ<br>・聞き直す<br>・繰り返す<br>・言い換える<br>・話題を発展させる<br>・話題を変える など<br>・褒める<br>・謝る<br>・感謝する<br>・望む<br>・驚く<br>・心配する など<br>・説明する<br>・報告する<br>・描写する<br>・理由を述べる<br>・要約する<br>・訂正する など<br>・申し出る<br>・賛成する<br>・反対する<br>・主張する<br>・推論する<br>・仮定する など<br>・依頼する<br>・誘う<br>・許可する<br>・助言する<br>・命令する<br>・注意を引く など |                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 言語活動の例<br>（共通話題：<br>職業、職業選択）    | 興味のある職業や将来就きたいと思っている職業を伝える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 将来就きたいと思っている職業とその理由、その職業が具体的にどのような仕事をするかなどについて、準備をした上で簡単に発表する。                                                                                                                                                    | 日本では認知度が低い職業、その分野で活躍している国内外の人物などについて読んで情報をまとめ、アウトラインを作成した上で発表する。また、発表内容に関する質問に答える。                                                                                                                        | 将来の職業選択において重要視したい条件とその理由を具体的に説明するとともに、ワークライフバランスなどの視点も含め、どのような社会生活を理想と考えるかについてプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーションの内容について質疑応答を行う。                                                                                                                                                                                    | 職場で起こり得る勤務上の問題（勤務体系、業務量、業務分担など）について、グループごとに与えられた立場（社員、上司など）から解決策を出し合い、互いが合意できる結論をまとめて発表する。また、各グループからの発表を踏まえ、課題解決型のロール・プレイを行う。                                                                                                                                                                                      |



「書くこと」

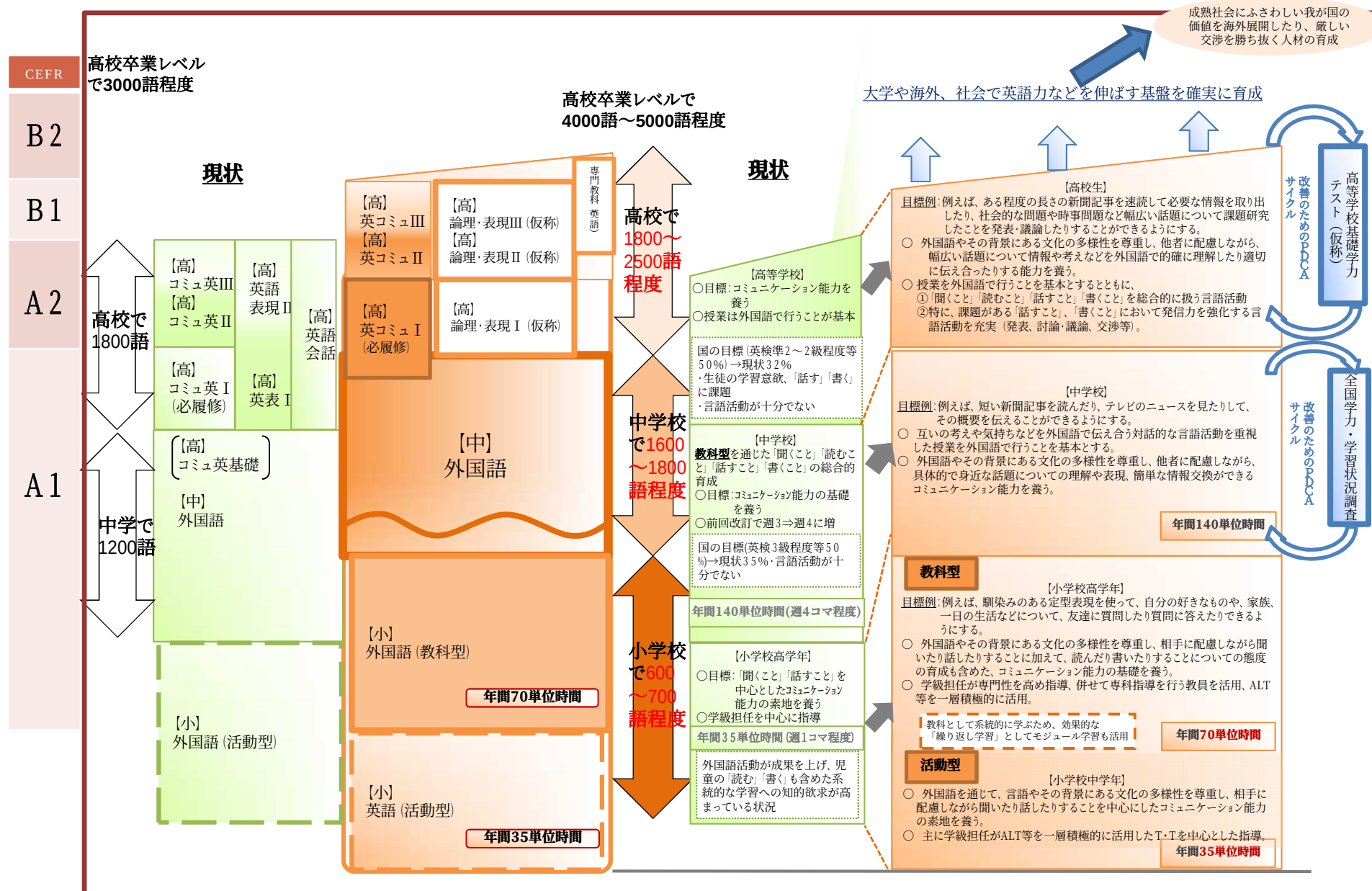
| 書くこと                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (参考)<br>CEFR 自己評価表              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | A1<br>新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。<br>例えばホテルの宿帳に名前, 国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。                                                                                                            | A2<br>直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。<br>短い個人的な手紙なら書くことができる: 例えば礼状など。                                                                                                                                            | B1<br>身近で個人的に関心のある話題について, つながりのあるテキストを書くことができる。<br>私信で経験や印象を書くことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                              | B2<br>興味関心のある分野内なら, 幅広くいろいろな話題について, 明瞭で詳細な説明文を書くことができる。<br>エッセイやレポートで情報を伝え, 一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。<br>手紙の中で, 事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 想定される<br>学校種・教科, 科目等            | 小学校中学年・外国語活動<br>＋<br>小学校高学年・外国語                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 小学校高学年・外国語<br>＋<br>中学校・外国語                                                                                                                                                             | 中学校・外国語<br>＋<br>高等学校・外国語, 必修修科目                                                                                                                                                                                         | 高等学校・外国語, 選択科目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | (高等学校・外国語, 選択科目<br>＋<br>専門教科, 英語 等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 国の指標形式の<br>主な目標                 | <div>□目的を持ってアルファベットの大文字と小文字を活字体で書くことができるようにする。</div> <div>□例文を参考にしながら, 音声などで十分慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <div>□自分に関するごく限られた情報を, 簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</div> <div>□ごく身近な事柄について, 簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</div>                                                                              | <div>□自分が必要とする事柄について, 短い簡単なメモやメッセージなどを書くことができるようにする。</div> <div>□身近な事柄について, 簡単な語句や表現や用いて, 短い説明文を書くことができるようにする。</div> <div>□聞いたり読んだりした内容について, 簡単な語句や表現を用いて, 自分の意見や感想を書くことができるようにする。</div>                                | <div>□自分の経験や身近な事柄について, 複数のパラグラフから成る説明文を書くことができるようにする。</div> <div>□関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</div> <div>□関心のある分野のテーマについて, まとまりのある文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。</div>                                                                                                                                    | <div>□関心のある分野のテーマについて, 事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。</div> <div>□時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができるようにする。</div> <div>□時事問題や社会問題など幅広い話題について, 得た情報を活用しながら, 自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。</div> <div>□E メール, エッセイ, レポートなどを, それぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。</div>                                                                                                     |
| 授業における主な<br>言語活動<br>(言語の使用場面の例) | <div>○アルファベットの大文字・小文字</div> <div>○語間の区切りに留意した文(書き写し) など</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <div>○符号や語間の区切りに留意した簡単な挨拶</div> <div>○自分に関する基本的な情報</div> <div>○慣れ親しんだ語句を活用したごく身近な事柄や出来事の説明 など</div>                                                                                    | <div>○近況などを伝える短い簡単なはがきや手紙</div> <div>○身近な事柄に関する簡単な説明</div> <div>○平易で短い説明の要点のメモ, 意見・感想 など</div>                                                                                                                          | <div>○身近な事柄に関する説明</div> <div>○関心のあるテーマに関する記事や資料の要約</div> <div>○関心のあるテーマに関する説明と意見・理由</div> <div>○目的に応じたメモ, アウトライン, 原稿 など</div>                                                                                                                                                                                                                      | <div>○関心のあるテーマについての詳細な説明</div> <div>○幅広い話題に関する記事や資料の要約</div> <div>○幅広い話題に関する説明と意見・理由</div> <div>○目的に応じたメモ, アウトライン, 原稿 など</div>                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                 | <div>・発音されたアルファベットの大文字・小文字を活字体で書く。</div> <div>・語と語の区切りに注意して, 身近な事柄に関するごく簡単な文を書き写す。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <div>・符号や語と語の区切りに注意しながら, 定型表現を用いて, 簡単な挨拶文などを書く。</div> <div>・名前, 年齢, 趣味, 好き嫌いなど, 自分に関する基本的な情報を文で書く。</div> <div>・慣れ親しんだ語句を活用して, ごく身近な事柄や出来事, 自分の経験したことなどを説明する文を書くとともに, それを口頭で伝え合う。</div> | <div>・自分の近況, 相手への感謝や謝罪などを伝える短い簡単なはがきや手紙を, 定型表現を活用しながら書く。</div> <div>・自分, 学校, 地域などの身近な事柄について, 簡単な語句や表現を用いて複数の文を書くとともに, それを口頭で伝え合う。</div> <div>・平易で短い説明を聞いたり読んだりして, 要点をメモするとともに, その内容について, 簡単な語句や表現を用いて自分の意見や感想を書く。</div> | <div>・身近な事柄に関する説明文を, 文のつながりや文章全体の構成などに注意して書く。</div> <div>・関心のある時事問題や社会問題に関する記事や資料を読んで, 内容の要点を示す語句や文, つながりを示す語句などに注意しながら要約文を書く。</div> <div>・関心のある時事問題や社会問題の内容を具体的に伝える説明文を書くとともに, 賛否を明確にしながら, 自分の意見やその理由を書く。</div> <div>・書いた文章を読み返し, 表現や文法の適切さなどに留意して推敲する。</div> <div>・目的に応じてメモ, アウトライン, 原稿を書き, それらを活用してスピーチ, プレゼンテーション, ディバート, ディスカッションなどを行う。</div> | <div>・関心のある分野のテーマについて, 明確に事実を解説したり情報を伝えたりする詳細な説明文を書く。</div> <div>・時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで, 内容の要点を示す語句や文, つながりを示す語句などに注意しながら要約文を書く。</div> <div>・時事問題や社会問題など幅広い話題について, 様々な考え方を整理しながら明確に書いて伝えるとともに, 自分の意見や主張及びその理由を論理的に組み立てた論説を書く。</div> <div>・書いた文章を読み返し, 論点や根拠の明確さ, 表現や文法の適切さなどに留意して推敲する。</div> <div>・目的に応じてメモ, アウトライン, 原稿を書き, それらを活用してスピーチ, プレゼンテーション, ディバート, ディスカッションなどを行う。</div> |
| 言語の働きの例                         | <div>〈コミュニケーションを円滑にする〉<br/>〈気持ちを伝える〉<br/>〈情報を伝える〉<br/>〈考えや意図を伝える〉<br/>〈相手の行動を促す〉</div> <div>・相づちを打つ<br/>・聞き直す<br/>・繰り返す<br/>・言い換える<br/>・話題を発展させる<br/>・話題を変える など</div> <div>・褒める<br/>・謝る<br/>・感謝する<br/>・望む<br/>・驚く<br/>・心配する など</div> <div>・説明する<br/>・報告する<br/>・描写する<br/>・理由を述べる<br/>・要約する<br/>・訂正する など</div> <div>・申し出る<br/>・賛成する<br/>・反対する<br/>・主張する<br/>・推論する<br/>・仮定する など</div> <div>・依頼する<br/>・誘う<br/>・許可する<br/>・助言する<br/>・命令する<br/>・注意を引く など</div> <div>各言語活動に応じた言語の働きを適宜選択</div> |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 言語活動の例<br>(共通話題: 日常生活・時間の有効活用)  | 日常生活における人の行動を表すイラストや写真と英語表現とを結び付け, 学習した単語や文を書き写す。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 自分が平日及び週末にふだん何をしているかについて説明する文を書き, グループで伝え合う。                                                                                                                                           | 時間があればしてみたいと思うことや挑戦してみたいことを, その理由とともに説明する複数の文を書き, 発表する。                                                                                                                                                                 | サマータイムを導入している国々におけるその効果や課題に関する複数の資料を読んで, 得た情報を書いて要約するとともに, それを口頭で相手に伝える。                                                                                                                                                                                                                                                                           | 日本でサマータイムを導入した場合に予想されるメリット・デメリットについて, 資料を活用しながら自分の意見を書き, 日本にサマータイムを導入すべきかどうかについて, グループでディスカッションを行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



## 小・中・高等学校を通じて一貫した目標設定の在り方について

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表。

## 外国語教育の抜本的強化のイメージ



小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

## 資質・能力の例

### 小学校（中学年）

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

### 小学校（高学年）

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

### 中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力  
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

### 高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力  
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

## 指標形式の目標（「話すこと」の例）

### 小学校（中学年）

(例)  
・自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとするようにする。

### 小学校（高学年）

(例)  
・身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。

### 中学校

(例)  
・身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

### 高等学校

(例)  
・身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

【見方・考え方】  
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

・主体的な学び  
・対話的な学び  
・深い学びへ

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

情意・態度の育成

## 目的に応じたコミュニケーションのプロセス

### 【学習過程】

- ①目的の設定・理解
- ②目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し
- ③目的実現のための言語活動（「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型）
- ④まとめと振り返り

※詳細は次ページ参照

次の活動へ

「見方・考え方」の成長・発展



外国語活動・外国語科の  
学習過程のイメージ

他者への働きかけ、他者との協働  
外部との相互作用

次のコミュニケーション  
における目的の設定・活動へ

※必ずしも一方通行の流れではない

目的実現のための言語活動  
（「聞くこと」「読むこと」「話  
すこと」「書くこと」の統合型）

言語・内容の両面におけ  
るまとめと振り返り

目的の設定・理解

目的に応じた  
発信までの方向性の決定・  
言語活動等の見通し

小学校  
(中学年)

①【目的の設定・理解例】  
簡単な語句や表現を使って、自分  
のことや身の回りのことについて  
話したり聞いたりして、外国語  
によるコミュニケーションを体験  
する。

③【目標実現のための活動例】  
使用表現について理解したり、練習したりする活動・お互いの考えや気持ちを伝え合う活動  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内  
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び  
【コミュニケーションの働きの例】  
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験しての感想など）

小学校  
(高学年)

①【目的の設定・理解例】  
馴染みのある定型表現を使って、  
自分の好きなものや、一日の生活  
などについて、友達に質問したり  
質問に答えたりできる。

③【目標実現のための活動例】  
・言語材料について理解したり練習したりする活動  
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内  
・児童の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び  
【コミュニケーションの働きの例】  
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、考えや意図を伝える、相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（活用した言語表現等についての気づきなども含む）  
・内容面でのまとめと振り返り（得られた情報やそれについての考えやコミュニケーションを体験しての感想など）

中学校

①【目的の設定・理解例】  
具体的で身近な話題の概要・要点  
を正確に理解し、考えや気持ち等  
を適切に伝えたり、簡単な情報交  
換をしたりできる。

③【目標実現のための活動例】  
・言語材料について理解したり練習したりする活動  
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動  
※具体的な場面に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする  
※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面や文脈で活用  
【言語の使用場面の例】  
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話  
・生徒の身近な暮らしに関わる場面家庭生活、学校での学習・活動、地域行事  
【言語の働きの例】  
・コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す

④・言語面でのまとめと振り返り（話して伝えたことをより正確に書くなど）  
・内容面でのまとめと振り返り（受信したことや発信したことの整理など）

高等学校

①【目的の設定・理解例】  
日常生活や社会生活に関する幅広い  
話題の概要・要点を的確に理解  
し、情報や考えなどを適切に伝え  
る合うことができる。

③【目標実現のための活動例】  
・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動  
・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動  
・幅広い話題について発表、討論、議論、交渉などを行う活動  
【コミュニケーション能力の設定】  
・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の基礎的な能力（必修修科目）  
⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力（必修修科目＋選択科目）  
・英語話者が理解できる程度の英語（必修修科目）  
⇒ 英語話者が理解できる程度の英語＋ある程度の流暢さ（必修修科目＋選択科目）  
【話題の設定】  
身近な話題及び日常的话题や関心のある分野（必修修科目）  
⇒ 時事的な話題や社会問題など（必修修科目＋選択科目）  
【情報や考えなどの発表・やりとりに関する言語活動の設定】  
・（発表）スピーチ、プレゼンテーション等  
・（やり取り）ディベート、ディスカッション等  
※小・中学校で扱った語いや表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スパイラルに学習する  
※具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにする  
※ペア・ワークやグループ・ワークを学習形態の基本とする

④・言語面でのまとめと振り返り  
【例】流暢さを重視したスピーキング活動の後で、正確さをより重視したライティング活動を行うことによる言語の質的な高まり  
・内容面でのまとめと振り返り  
【例】得られた情報や考えなどを整理することによる思考の深化

資質・能力の例について

○簡単な語句や表現を使って、自分の  
ことや身の回りのことについて、  
友達に質問したり質問に答えたり  
するコミュニケーション力

○馴染みのある定型表現を使って、  
自分の好きなものや、一日の生活  
等について、友達に質問したり、  
質問に答えたりするコミュニケー  
ション力

○具体的で身近な話題について、  
学校、地域、他教科等での学習  
内容等と関連付けながら、お互  
いの考えや気持ちなどを外国語  
で適切に伝え合う能力

○聞いたり読んだりしたことを活  
用して話したり書いたりして発  
信するコミュニケーション力

○日常的话题から時事問題や社会  
問題まで幅広い話題について、情  
報や考えなどを外国語で的確に理  
解したり適切に伝え合ったりする  
コミュニケーション力

○聞いたり読んだりしたことを活  
用して話したり書いたりして発信  
するコミュニケーション力



|             | 知識・技能                                                                                                                                               | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                      | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                                       |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高等学校<br>外国語 | <p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</p> | <p>○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</p> | <p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p> |
| 中学校<br>外国語  | <p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</p> | <p>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</p>                                      | <p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p> |
| 小学校<br>外国語  | <p>○外国語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>○外国語の学習を通じて、言語の仕組み（音、単語、語順など）や、その背景にある文化などに気付いている。</p>          | <p>○馴染みのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りのことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。</p>                                                                                                          | <p>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>    |

|                      |                                                                                                                  |                                                                 |                                                                                                                                                    |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>小学校<br/>外国語活動</p> | <p>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。</p> <p>○外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付いている。</p> | <p>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりして表現している。</p> | <p>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○言語の大切さや、文化の違いに気付き、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|